



Sea Breeze 77 湘南学園は、創立77年です

恩師を訪ねて 馬場甲子男先生 (数学・物理)
HAWAIIAN FES and JAZZ / ホームカミングデー
シリーズ 湘南学園史 第1回

SEASIDE Web は、湘南学園同窓会公式サイトで検索 <http://shogak-doso.org/>

尾高忠明氏 N響正指揮者に就任

心のふるさと、湘南学園!

葉山の実家から、ある時は東海道経由小田急で、ある時は鎌倉駅から江ノ電で通った中学3年間。あの、砂地の感触、松林、海、あれから半世紀もたったなんて!

桐朋学園の音楽科を受けるに当たって、音楽の小川先生に、ご自宅で聴音の特訓を受けた。素晴らしい先生で厳しくも、優しさに溢れ、いつもお茶をご馳走になって



しまった。1、2年の頃は音楽家への道など夢にも考えていなかったが、3年になったある日、指揮者を目指す気になった。N響の演奏会を聴いた僕は背中に電気が走ったように感動し、それまで兄と僕に「どんな職業も良いけれど、音楽家はやめて、特に作曲と指揮はね。」(父がその両方をしていて苦勞して早死にしたので。)と言っていた母に、意を決して「指揮者になりたい。」と言った。母は何も言わず翌朝、斉藤先生に電話をしてくれた。

かくして、同じ湘南学園の兄は作曲家、僕は指揮者になり、困った息子達だ。こんな僕たち兄弟を自由な雰囲気の中で育てくれたのが、湘南学園だ。園長先生はじめ皆さんが、減点主義がはびこっていた時に、個人の良さを引き出すような教育をしてくれた。感謝! 3年間一緒に勉強した仲間のごとくとても懐かしい。また、音楽家の平尾昌晃さん、高橋悠二さん、安田謙一郎さん、広上淳一さん、皆、湘南学園だ。あの校風、小川先生に僕たちは深く感謝している。湘南学園がいつまでも素晴らしい校風を続けてくれることを信じて。

英国に飛べないのでかえって時間が出来ました。
アイスランドの火山爆発で足止めされているメルボルンにて。

20 Apr 2010 尾高忠明 (中S37年度卒)

NHK交響楽団正指揮者 / メルボルン交響楽団首席客演指揮者
札幌交響楽団音楽監督 / 新国立劇場オペラ部門芸術参与、同芸術監督代行
BBCウェールズ交響楽団 (現BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団) 桂冠指揮者
1992年 1991年度第23回サントリー音楽賞
1993年 ウェールズ音楽演劇大学名誉会員 ウェールズ大学名誉博士号
1997年 大英勲章CBE
1999年 英国エルガー協会エルガー・メダル (日本人初)



尾高忠明&札幌交響楽団

協力: KAJIMOTO / 写真撮影: 佐藤雅英 (2点共)



同窓生多士済々
湘南学園80周年へ向けて

同窓会長 佐藤 允 (中S27年度卒)

長い人生で、湘南学園を母校と呼ぶ時間は在園していた時間より遥かに長く、価値のある時間です。めぐり合った友人たちとゆったり過ごした時の流れ。青春時代の想い出のかずかず。私にとって、湘南学園で出会った同窓生たちは、先輩も後輩も個性的で面白く、IQとEQのバランスがとれた、日本一素晴らしい仲間達です。その中から、この一年の間で新聞や雑誌に登場した誇るべき同窓生の何人かをご紹介しますとおもいます。

まず経済人では、大英帝国勲章 (KBE) を二度受賞された森稔氏 (森ビル社長、中S24年度卒)。六本木ヒルズ・表参道ヒルズ・上海最高層ビル等、パーティカル・ガーデンシティの提唱はまさに我が国の目指すべきコンセプト。Sirの称号を持つ氏に、来る6月26日(土)、湘南学園と同窓会共催で開催する「2010松ぼっくりフォーラム」(於：アリーナ)で講演をしていただくことになりました！ 乞うご期待です。

次に、米原啓三郎氏 (高S33年度卒)。湘南学園は草創期のデンマーク体操の時代から、大戦後の平尾アグネス先生 (平尾昌晃君の親戚)、マレスコ先生、マダム長谷川等を教師に迎える等、早くから国際色豊かな土壤がありました。三菱岩崎家のご縁により昭和27年から何年か続けて、毎年一名の高校卒業生をブラジルへ送り出したのもその一つでした。米原氏はその一人として、ブラジル三菱銀行でご活躍され、この程約21年ぶりに帰国されました。本年4月10日、氏から学園に対し、同氏をはじめ渡泊した同窓生のことも記されている「ブラジル100年の肖像」が寄贈されたことを、ご報告しておきます。

本号表紙を飾る尾高忠明氏 (中S37年度卒) が、1月にNHK交響楽団正指揮者に就任されました。親子二代目 (父君は尚忠氏) です。氏も大英勲章を受勲しており、我が国を代表するマエストロとして、今後一層のご活躍を期待しています。

もう一人は昨年5月藤沢市議会議長に就任された山口幸雄氏 (高S40年度卒)。こちらも藤沢市初の親子二代目 (父君は山口倉吉氏) です。3月末に開催された祝賀報告会には多数の同窓生が激励に駆けつけました。地方自治のキーマンである氏は、神奈川県市議長会会長とし

て、また同窓会常任幹事としてもご活躍頂いております。昨2009年度、同窓会が行った主な活動を記しておきます。

1. 2009年3月

湘南学園75周年記念号として「SEASIDE VOL.16」を発行。また、広報活動活性化の目玉とすべくホームページの刷新に着手いたしました。

3月14日(土)中高ホールに於いて「第一回松ぼっくりフォーラム」を開催、キャタピラージャパン社長平野昭一氏 (中S32年度卒)、元EU大使朝海和夫氏 (小S29年度卒) のお二人に、国際化時代にふさわしい講演をして頂きました。

2. 10月3日(土)～4日(日)、湘南学園祭参加展示として、大久保坦先生遺作版画展を大会議室にて開催しました。ご遺族をはじめ旧先生や同窓生のご協力を得てたくさんの名作を陳列し、大勢の観賞客を迎えて大成功でした。隣の中会議室に於いて4日に第二回各学年幹事会を開催、藤岡園長にも参加頂き、学園の発展と同窓会活動を主題に活発な議論がおこなわれました。

3. 11月3日(火・文化の日)、「ホームカミングデー」を実施。先生方が学園内を案内、参加した同窓生達はそれぞれ今昔のおもいをかみしめておりました。引き続き2009年度総会を開催、会則・役員紹介・予算等議題の承認がありました。その後アリーナで、小田理事長をはじめ学園幹部にも参加頂き、賑やかなハワイアンフェスティバルショーが開かれ、同窓生が関係するハワイアンバンド・ボーカル・フラで盛り上がりました。後半は場所を中高ホールに移して、ジャズの演奏をバックに同窓生交歓会がおこなわれ、藤岡園長と寶田小学校長のボーカルも加わって、アルコール抜きのお会なのに大いに盛り上がりました。丸一日を要した「ホームカミングデー」に理事長はじめ学園幹部にご出席頂き、私達が提唱しているトータル学園力強化、チーム湘南学園の、大きな第一歩が築けたものとおもいます。

2010年度は湘南学園77周年、喜寿の年であります。新年度にあたり、湘南学園では理事長、学園長等幹部7人のうち、5人が任期満了と定年を迎え、交替されることとなりました。同窓会としては、新しく就任される幹部の方達とも、今までと同様の緊密な関係を築きながら、かけがえのない我が母校の発展をめざし、応援していきたいと思っています。私達役員一同、より楽しく面白く役に立つ同窓会づくりを心掛けて参ります。同窓生のみなさん、どうか一層のご支援をお願い致したく存じます。

茶道の原点

茶道鎮信流宗家 松浦 章 (中S31年度卒)



現今、「お茶」と申せば、婦人の手なくさみの一つ、と言う位が一般の認識ではないか、と思います。

しかし、昔日、茶は、特に武士階級の

間で、「茶道」として、「道」という性格を持つ、精神修養の一手段とされていたのであります。武人が茶に目を向けた理由として考えられますのは次のようなことのであります。

武士階級は鎌倉時代より台頭してきましたが、それまで権力を握っていた公家にかわり為政者としての立場を持ち始めますと、それまでの、

武力を身の上とする粗野な存在では資質に欠ける、ということに自覚するに至ったのであります。教養を高め、より円満な人格を得る為、先ずは禅による精神修養を第一とし、それに各種の禅的な修練を加えて行ったのであります。能、詩歌等と共にその手段の一つとなったのが茶道でありました。本来の業と言うべき武道の修練に文化的、精神的な活動が加わり、いわゆる「文武両道」の修行、ということが言われたのであります。拙家二十九世、松浦鎮信（元和八～元禄十六）は、片桐石州の門人として茶を修めましたが、長じて自身の一派、鎮信流を興しました。茶道を「文武両道の内の風流」と位置付け、心胆を茶儀の間に鍛えんとしたのであります。私は、現代の唯物論的思考の蔓延を見るにつけ、昔日、武人が自らの不備を自覚し、人間としてより完成度の高い存在にならんとしたことを大としたいのであります。

KUGENUMA SHIMIZU

学園のすぐ近くに、一軒の住宅を利用した、いかにも鶴沼らしい隠れ家的フレンチレストランがあります。

オーナーシェフの清水克則さんは、元プロサッカー選手にして、現在も学園サッカー部コーチを務めて頂いています。奥様のひとみさん（旧姓桜井・高H7年度卒）は、幼小中高14年の生粋の学園ガール。

お二人が演出する、ゆったりした時間と料理、家と庭の風景は絶妙。

（完全予約制 0466-53-5707）

（取材 園分圭子）



シルフィード・忠兵衛

江の島東浜に面した「シルフィードクラブ」はボードセーリングの草分けのショップだ。オーナーの脇田忠さん（高S35年度卒）がヨットとサーフィンの楽しさを併せ持つこのスポーツに将来性を予感、昭和63年にオープンした。初心者にはレンタルも用意されスクールもある。並びの「忠兵衛」でお魚料理がメインの食事もある、観光客も多い。

（シルフィード 0466-22-2511）

（忠兵衛 0466-27-1455）

（取材 村上一彦）



“学園ボーイ” 健在

海が近い事もあり、ヨットに乗っている学園関係者は多い。しかし、同期のうち4名も江の島ヨットハーバーで活動している例はないと思う。

黒田君は《BLUE PULSAR》

松村君は《LIBERTY》

私は《ARIADNE》

村上君は乗り手の少ない船の助っ人。毎月1回はクラブレースで競い合い、夏になるとパールレース（志摩→江

島 弘三 (中S34年度卒)

の島)に参加したりと忙しい。

これら僚艇のおかげで、私も日本最西端の与那国島まで行く事ができた。これも遊べるうちだ。

他のスポーツでも言えるが、若い人の参加が少ない。江の島でこれらの船名を見つけたら来てくださいね、後継者募集中です。おじさん達は“万年青年”ばかりで、セーリング後のお酒の飲み方もハンパじゃない。

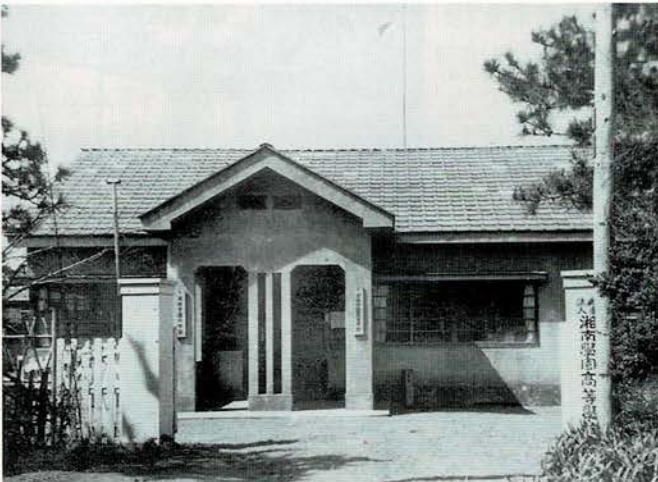




1933年(昭和8年) 創設時の校舎 松本源三郎氏所有の
写真は1983年頃 旧天野邸を借りる。後の「母の文庫」



1936年(昭和11年)頃
右手前 第一校舎(1933年)
左奥 第二校舎(1934年)



1950年(昭和25年) 柳小路にあった中学、高校校舎
B地区と呼ばれ、1954年(昭和29年)4月迄使用



1951年(昭和26年) テラス付きのモダンな小学校校舎
1955年(昭和30年)作成の湘南学園絵葉書より



1959年(昭和34年) 浄化装置付きプール
国井博隆氏の御寄贈による



1963年(昭和38年) 中学・高校6号館校舎竣工
学園初の鉄筋コンクリート造3階建ての校舎

第1回 松と潮風と校舎



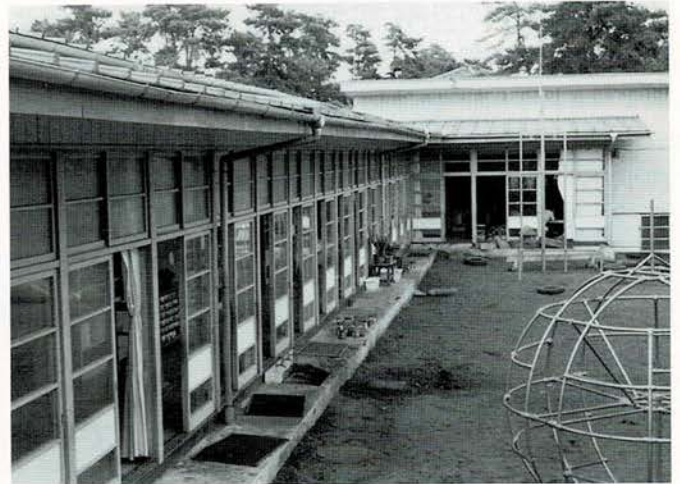
1948年(昭和23年) 中学校第一校舎
写真は1953年(昭和28年)運動会



1948年(昭和23年) 中学第二校舎(手前)と第一校舎(奥)
写真は1958年(昭和33年)創立25周年記念記録会



1954年(昭和29年) 中高新校舎(C地区)
これにより柳小路(B地区)より移転



1958年(昭和33年) 小学校校舎竣工(木造平屋建て)
1964年迄使用し、幼稚園校舎へ転用



1964年(昭和39年) 小学校鉄筋コンクリート造校舎竣工



1961年(昭和36年) 体育館兼講堂竣工
1965年(昭和40年) 本館(事務・中学校舎)竣工

監修・資料協力：内藤喜嗣(高28年度卒)／編集：同窓会広報部

馬場甲子男先生（数学・物理）

昭和25年～34年、高校数学・物理、中学理科ご担当の馬場先生よりご寄稿頂きました。



「学園の思い出」をという編集子よりのご要望に答え、そのいくつかを記します。当時の社会・経済情勢は貧しく、多数の皆さんにはお伽の国の話に写るかと思いますが。「学園との出会い」友人の紹介で学園を訪ねたのは昭和24年の夏の終り。垣根も無い広場の隅に粗末な平屋が数棟並び、昼下がりの陽を受けてブルシャンプルーの旗がはためいていました。松林の中の小さな学舎は驚きと共に心に安らぐものを与えてくれました。宮下園長はこの小さな学園の将来に抱く夢を熱っぽく語られ、私には中学理科・新制高校の理数を担当するようにとのお言葉を頂きました。

「B地区時代」25年の春、高校の新設とともに中高は柳小路の螺子工場寄宿舎跡に移りました。生徒は中高合

わせて約二百、教職員は二十名足らず、いわゆるB地区時代の幕開け、荒れ放題の建物に雨露を凌ぐ建具をはめた校舎。若い集団のエネルギーは間もなく板戸に穴を開け、床を踏み抜き一度に3教室の授業が聞こえる始末で、誰言うとも無く「お化け屋敷」と称するようになりました。猫の額ほどの校庭は松林・田んぼに囲まれており、昼休みとなれば竹垣を乗り越え散策する者まで出ました。貧しい環境ながら自由な雰囲気のみなざる学舎でした。

「我より古を作る」草創期の学園は学事も行事も一つ一つ創りだして行かねばなりませんので、教員室は「我より古を作る」（園長訓）の実践の場となりました。教員も平均年齢は若く夜の更けるまで喧々譁々の議論する日もあれば、生徒と卓球・テニスを楽しむ日もありました。私は良き先輩・同僚・やんちゃな生徒の皆さんに囲まれて素晴らしい徒弟時代を送ることができたと感謝しております。特にお世話になり後の教師生活の糧となった方は宮下正美先生、友野代三先生。生徒諸君と寝食を共にした山中湖・野尻湖キャンプ・富士登山・八ヶ岳縦走など思い出は尽きませんが、指定のスペースがつかまりましたので、学園の今後の発展を期し筆を擱きます。

HAWAIIAN FES and JAZZ／ホームカミングデー



フラチーム、 学園アリーナで共演

同窓会事業部
前川 力（高S35年度卒）

2009年11月3日（火）文化の日、前日の風雨が収まり、冷たい風が気になるが、晴れ間がのぞく、まずまずのコンディションだ。早朝から、学園内外で事業部のメンバーを中心に案内看板設置、場内、会場の準備等が始まる。ホームカミングデー“ハワイアンフェスティバル”が湘南学園アリーナでいよいよ開催される。昨年から、このホームカミング事業については今後80周年を5年後に控え、色々な意味で重要な、また最大な事業と位置づけていた。

今、旬な一つにフラダンスブームがある。全国レベルであり、今年の札幌雪まつり期間に千歳空港内のイベントにまでフラダンスショーには驚かされた。このブーム、当然ご本家は国民的あこがれの居住地、年を取ったらぜひ住みたい場所。温暖な湘南からスタートしている。

このブームをホームカミングデーに絶好のイベントとして企画すべきと事業部全員は考えた。更に並行して、現在日本のハワイアン、特にフラブームのことならこの人を除いて語れない重鎮、鳥山親雄氏（鶴沼在住、ご子息は学園OB）に相談、企画協力、ゲスト出演を快諾頂いた。

フラチームでは、大先輩の木下さん（3回卒）を始め、魚山さん（旧姓太田 9回卒）、真子さん（40回卒）、長坂さん、権藤、丹羽、他の方々の協力をいただき、出演者では、池田（3回卒）、渡辺（3回卒）、涌井（6回卒）、寺中（旧姓古川 7回卒）、ウクレレ教室の津村（14回卒）の各氏。東京からアロハアフィニティーバンドと専属フラチーム、ゲスト出演に葉山からクマさんも登場する豪華な舞台になった。まだまだ先輩、後輩の方々のご意見、ご協力があったことを報告し、御礼申し上げたい。このアリーナ会場終演後、懇親会場の中高ホールにて引き続き、ジャズ演奏会、中山さん（旧姓大森 8回卒）出演メンバーによる演奏が夕刻までおこなわれた。

藤岡学園長、寶田小学校校長の特別出演、同窓会の方々の一部在校生も加わり、ホームカミングデーの最後を締めくくる大変な盛り上がりを見せた。



就任のご挨拶

学園長 仲本 正夫

私は会津の小さな村で小学校から中学3年の夏までを過ごしましたが、現在、その村を訪れてみると、当時の木造校舎はすでになく、別のところに新しい立派な校舎ができております。

しかし、小中学校の思い出は、栗拾いや魚釣りなどを思う存分できた自然豊かな村の思い出とともにたくさん

残っております。そして、その時代をのびのびと過ごすことができたことで、自分は自然や学校が大好きになったように思います。学校と学校のある地域というものは、たとえ校舎がなくなっても子供の心にたくさんものを残しているということを改めて感じます。湘南学園を卒業された多くの皆様も、この美しい湘南の地とともに、個性が尊重される学園で過ごされた胸がおどるような様々な思い出をお持ちだと思います。その思い出は、同窓会のとても大切な絆になっているのではないのでしょうか。私は、一人ひとりの卒業生の胸に、一生の宝物となるような思い出のできる学園づくりを皆様と力を合わせてすすめていきたいと思っております。同窓会のさらなるご発展を心から期待いたしております。

同窓会会員の
ひな鳥はどこに

前学園長 藤岡 貞彦



どんな組織でも、若い世代に食い入り、信頼され、参加されることによって、いきているのです。さてわが同窓会はいかがですか。たとえば、この学園では、近年、成人式をむかえた卒業生たちが、成人の日にあつまって、毎年、学年毎にパーティを開いていると聞きました。美

しい風景です。

さて、この学年のグループの組織化こそ、同窓会発展の原動力ではありますまいか。

「ホームカミング」のあの夕、プラスバンドのけいこを終えた高校生たちが、おじ様たちのジャズ演奏を耳にして、「何が始まったのか」とホールにあつまってきたではないですか。

私の「憧れのハワイ航路」にまで拍手されたのにはおどろきました。同窓会の魅力が、あの場にひな鳥を呼び寄せたのです。

おじ様・おば様たちのひな鳥募集力に、大いに期待しています。

□小学校改築工事が始まりました

3月25日に小学校改築工事の地鎮祭が執り行われ、いよいよ工事が本格的に始まりました。当日は理事長、学園長、小学校長はじめ関係者、また同窓会から佐藤会長にもご出席頂きました。

工期は2012年8月までの約30ヵ月ですが、来年3月には一部が完成し、新入生は新しい校舎で学ぶこととなります。その後45年以上生徒たちに使われてきた東校舎が解体され、体育館、その屋上にプールが設置されます。

外構工事は最後になり、約半世紀の歴史を持つプールも撤去され、跡地は広いグラウンドに生まれ変わります。小学校周辺は樹木や遊具などが撤去され、銅板塀に囲まれて、暫くは工事現場の雰囲気ですが、やがて素晴らしい校舎が完成しますので、卒業生の皆さま、どうぞご期待下さい。

□卒業式が終了し、それぞれ巣立って行きました

高校 3月6日 181名
小学校 3月18日 108名
幼稚園 3月16日 60名

□入学式では新しい児童、生徒を迎えました

中学校 4月8日 192名(内81名が学園小からの進学者)
小学校 4月10日 89名(内39名が学園幼からの進学者)
幼稚園 4月14日 48名

□学園の主要人事について

新任

理事長 高尾 信 (新)
学園長 仲本正夫 (新)
中学高校長 山田明彦 (新)
小学校長 寶田宏恭 (再)
幼稚園長 榎本トミ (新)

退任

前理事長 小田拓也
前学園長 藤岡貞彦
前中学高校長 古市好文
前幼稚園長 渡辺礼子

湘南学園後援会発足



設立のご挨拶

湘南学園後援会会長
富田良男 (高S42年度卒)

日頃より「SEASIDE」をご愛読されている同窓生の皆様、初めまして。

本年の四月より「学校法人湘南学園理事会」の要望により、「湘南学園後援会」を設立させて頂きました。この後援会は、これまでにPTA(保護者及び教職員)として学園に深い関わりを持ち、離れてもなお学園を愛している皆様の為にコミュニケーションの場を設け、会員の相互親睦を深めて頂くために発足いたしました。また、在学中の子供達をサポートし、側面から今後の学園をより安定させると共に、社会貢献に繋がる活動を継続させていく事を趣旨としています。同窓生の皆様におかれま

しては既にご承知の事と思いますが、約75年に渡る学園の歴史の中で我々が誇れる一番の財産といえ、いくらか感謝してもし尽くせない父兄と、深い愛情を持って指導して頂いた先生方の存在である事は疑いようの無い事実です。会員の中にはご本人とご子息のみならず、お孫さんまでも学園のお世話になっている方もいらっしゃると思います。今後の学園を側面から支援していくのは、そういった「同窓会」の会員の皆様と、PTAとして経験を積まれた方々で成り立つ「後援会」のメンバーであると確信しています。まだ生まれただけの後援会ではございますが、今後は同窓会とより密接な連携を保ち、更なる発展を遂げていければと願っております。同窓会の皆様方には、より一層のご理解とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

事務局より

ご寄付へのお礼と会費納入のお願い

同窓会の維持、学園支援を目的として、会員の皆様には2,000円の年会費納入をお願いしております。

昨年度も年会費をお納め頂きありがとうございました。また、会費とともにご寄付を頂いた方々には厚く御礼申し上げます。

本年度もこのSEASIDEに同封いたしました振込用紙をご利用の上、年会費をお振込み頂きたく存じます。

一万数千の会員のなかで年会費をご納入頂けるのは毎年600~700名ほどで、会費の納入率は僅か数パーセントに過ぎません。同窓会の発展のためにもなにとぞご納入頂きたく、重ねてお願い申し上げます。

また、昨年同様会費の他にご寄付を賜れば大変ありがたく存じます。ゆうちょ銀行 00230-2-75579 湘南学園同窓会

SEASIDE Web

同窓会ホームページ始動



待望の同窓会ホームページが動き始めましたので、是非ご覧下さい。今後、内容の充実を図り、更新する為にも、皆様からの同窓生関連情報や、取材、編集などのご協力をお待ちしています。

WEB制作にあたっては、畑昭彦さん(中S32年度卒)が所属する、NPO法人湘南ふじさわシニアネットのご協力を得ています。設立7年目、110名のシニアが人生を楽しみながら、知識・経験を生かして地域へ貢献しています。ホームページ制作、パソコンの相談・講習・修理、高齢者支援などの事業を行っている団体です。



SEASIDE Web は、湘南学園同窓会公式サイトで検索 <http://shogak-doso.org/>

今年度の予定

□6.26(土)

13:00~13:45 2010年度通常総会
14:00~15:30

2010松ぼっくりフォーラム

講演：森ビル社長 森稔氏

16:00~ 懇親会

□10.2(土)~3(日) 学園祭にて

企画展「50年後の宿題提出」

この他、小学校「たいいく表現まつり」が、10月9日(土)学園にて、中高の合唱コンクールが、1月25日(火)、鎌倉芸術館にて行われます。

訃報 本山高志先生(物理・化学)が、4月8日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。